

令和6年度 学校教育目標等

教育局	宗谷	学校	北海道稚内高等学校	課程	定時制課程
-----	----	----	-----------	----	-------

1 学校教育目標

- ・ 進んで学ぶ態度を養い、自律して生きる力を育てる。
- ・ 規律を守る態度を養い、社会に適応する力を育てる。
- ・ 勤労を尊ぶ態度を養い、進んで実践する力を育てる。

2 スクール・ミッション

- ・ 社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成。
- ・ 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- ・ 地域課題の解決に果敢に挑戦する次代を担う「わっかない人」の育成
- ・ 社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）の育成

3 3つの方針（スクール・ポリシー）

○	育成を目指す資質・能力に関する方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の定着により思考力・判断力・表現力が身につく。 ・ 自己と他者の命と人権を大切にできる意識が醸成できる。 ・ 社会人基礎力が身につく。
○	教育課程の編成及び実施に関する方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立して社会の発展に積極的に貢献していく資質・能力の育成。 ・ 基礎・基本の定着と生徒個々の成就感・達成感を味わえる授業と授業規律の確立。 ・ 自立とキャリア教育の活性化。
○	入学者の受入れに関する方針
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の習得から定着まで主体的・継続的に前向きな取組が出来る生徒 ・ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解できる生徒 ・ 社会生活に役立つ知識や規範意識を主体的に身に付けようと努力する生徒

4 指導上の重点事項

重点 目標	<i>To the Next Stage</i> （更なる高みへ） ～次の100年も輝き続ける稚内高校～
学習 指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 「主体的・対話的で深い学び」の実践を進め、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等の着実な定着を目指す。 2 温度差のない授業規律の徹底と生徒の学習意欲を高める授業づくりを進め、基礎学力の着実な定着を目指す。 3 生徒の特性に応じた学習内容の提供による個別最適な学びを実現する。
生徒 指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の充実を図るとともに社会生活の規範を理解させ、望ましい生活習慣を身に付けさせる。 2 生徒一人一人の状況を適切に把握し、保護者、地域と連携した教育支援によって、問題の未然防止と早期解決に努める。 3 「稚内高校いじめ防止基本方針」を周知し、いじめ未然防止・早期発見・早期解決の徹底を図る。
進路 指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティア活動など、自らの在り方生き方への思索を深めるふるさとキャリア教育を通じ、地域を愛し、社会に貢献しようとする意識を育てる。 2 稚内キャリアデザイン～今の自分を未来の自分へつなぐ学びの道しるべ～の明確化を進め、教科横断型探究学習による「わっかない人」の育成を図る。 3 教育相談などを通じて自己肯定感を高め、自己実現に向けた意欲の醸成を図る。
健康・ 安全 指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 健全な生活習慣の定着と運動に親しむ態度を育成する。 2 ボランティア活動や特別活動を通して自己有用感を高めさせる。 3 自己と他者の命と、人権を大切にできる意識を育成するとともに、安全の確保及び事故防止の啓発に努める。 4 コンプライアンスを確立するとともに、メンタルヘルス事業の計画的推進を実施し、健康な職場づくりを目指す。

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

○ 「わっかない人^{びと}」とは…

⇒ ・ グローバルな視点を持って稚内を支える地域のリーダーを育成する。

- ・ 「わっかない人」としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立ってグローバル社会で活躍する人材を育成する。

地域課題の解決に果敢に挑戦する次代を担うグローバル人材

日本最北の地・稚内には豊かな自然から生まれた水産物や農畜産物がたくさんある。これらを活かして生産された産品や稚内が誇る文化・自然等の地域資源を「稚内ブランド」として認定し、広く国内外に発信することで、稚内の知名度の向上を図ろうとする取組が行われている。原材料や加工品のほかに、稚内港北防波堤ドームや南中ソーランなども認定されている。

私が稚内の良さは何かと考えていたら、最後に「稚内の人」にたどり着いた。私はこの「稚内ブランド」に是非、稚内が育んだ人＝「わっかない人」を加えたい。まだまだ、認知度は低いがいずれ全道、全国に「わっかない人」が広まることを夢見ている。当然のことであるが、稚内高校は稚内ブランド「わっかない人」づくりに全力で取り組むことを宣言している。

【第31代校長 元紺谷 尊広氏】

○ 「稚高キャリアデザイン～今の自分を未来の自分へつなぐ学びの道しるべ～」

⇒ 「稚内学」と「総合的な探究の時間」を軸とした教科横断型の探究学習によるキャリア教育

○ 稚内市キャリア教育子ども像（令和4年度稚内市教育連携会議 資料より）

生き抜く子ども

- * 自然豊かな稚内で、自己肯定感が強く、困難にも立ち向かいたくましく生き抜く子ども
 - ・ 自立の精神にあふれ、夢や希望の実現に粘り強く挑戦する。
 - ・ 人の意見を聞き、自他の良さに気づき、最後までやり抜く。

稚内を担う子ども

- * 心豊かに共に支え合い。ふるさとに誇りを持つ子ども
 - ・ 自ら学び考え、確かな学力とコミュニケーション能力を主体的に身につける。
 - ・ 心身共に明るく健康で思いやりのある生き生きとした生活を築く。

切り拓く子ども

- * 街と人を愛し、多様な人々と共同し。豊かな人生と未来を切り拓く子ども
 - ・ 失敗をおそれず、絶え間なく学び続け、自らの力を伸ばし発揮する。
 - ・ さまざまな社会変化を乗り越え、持続可能な社会のづくり手となる。

○ 東井義雄『村を育てる学力』（1957）

- ・ 進学指導・就職指導によって、たしかに村の子どもの学力は伸びるだろう。農村人口の都市へ移行も必然的な動向であろう。しかし、村の子どもの、村には見切りをつけて、都市の空に希望を描いて学ぶ、というのでは、あまりにみじめすぎる、と思うのだ。そういう学習も成り立つではあろうが、それによって育てられる学力は、出発点からして『村を捨てる学力』になってしまうのではないか。（38ページ）
- ・ ただ私は、何とかして、学習の基盤に、この国土や社会に対する『愛』を据えつけておきたいと思うのだ。『村を捨てる学力』ではなく『村を育てる学力』が育てたいのだ。みじめな村をさえも見捨てず、愛し、育て得るような、主体性をもった学力なら、進学や就職だっのり越えるだろうし、たとえ失敗したところで、一生をだいなしにするような生き方はしないだろうし、村におれば村で、町におれば町で、その生れがいを発揮してくれるにちがいない、と思うのだ。（38～39ページ）
- ・ 『愛』とは何か。『わたしのもの』……、『自分のこと』という意識のことだ。私はそう思う。主体的な『愛』は、ものを、自分のものとしてかわいがり、育て、しらべていく、行動的な学習を通してのみ、育て得るものだと私は信じている。（50～51ページ）
- ・ ……『村を捨てる』立場から育てられた『主体性』が、『村を捨てる学力』を形成していくことは必然だが、……この行き方に欠除しているものは『土』への『愛』である。『村』は、愛することもできないほど、暗く、貧しい。しかし、それがそうであればあるほど、それは、何とかせねばならぬ。『愛』が注がれねばならぬ。このような村をも愛することができるなら、この貧しい『国土』をも愛してくれるだろう。そして、そのことの中に、『生きがい』を見つけてくれるようになるだろう。たとい、村を出ていくことになっても、行ったところで、生きがいを切りひらいていってくれるだろう。
そして、そのような立場からの学習が、私は可能だと思う。客観的、普遍的な学問の価値が、そのような立場から消化されたら、どんなにすばらしいことだろう。」（173～174ページ）